

# 会社ぐるみで復興支援へ「仕分け」作業

## 東京・多摩市、東京海上日動システムズのボランティア活動

東京・多摩市に本社のある東京海上日動システムズは、CSR活動の一環として、2013年から毎年ベルマークの仕分けボランティアを続けています。会社に居ながらにしてできる東日本大震災被災地の復興支援として、これまでに延べ千人以上が作業に参加しました。

同社は、保険や金融の事業を幅広く展開する東京海上日動火災保険の子会社で、社員は1,357人(2019年4月1日時点)。「社会にやさしい」会社を目標に掲げ、ビル周辺のゴミ拾い、パラスポーツへの理解を深める講座、献血の推進などに積極的に取り組んでいます。同時に力を入れているのが東日本大震災の復興支援。被災地へのボランティアツアー、募金活動、東北の食材を使ったメニューの社員食堂での販売など、多くの社員が参加できるように様々な方法を取り入れています。

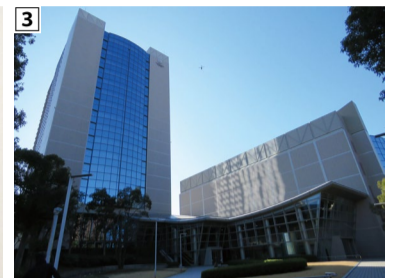
そのひとつがベルマークの仕分け。ベルマーク財団から送られてきたマークを会社・点数別に仕分け集計し、再び財団に戻す活動です。2016年からは毎年2回のペースで実施しています。活動期間は1回1週間。昼休みと就業後の午後6時までを作業にあて、気軽に参加してもらえるよう「短い時間でも大歓迎」「手ぶらで結構」と周知しています。今年度2回目の活動期間だった2月6日の昼

休みに取材に伺いました。

会場の会議室は、きてすぐ作業を始める人もいれば、初めてなのでまず説明を受ける人も。途中参加・退出が自由なので出入りが絶えません。過去10回以上参加した社員は「ベルマーク仕分けは短時間で気軽にできる社会貢献」、初参加の社員は「身近で参加している人が多く、自分もやってみようと思った」と話しました。

このイベントを準備したのは、総務部でCSR活動が担当の日原啓和さん。昨年9月から社内で1人だけのCSR担当になりました。「今はイベントを遂行するだけで精一杯」とのことでしたが、参加者の中には「日原さんに誘ってもらったからボランティアに来ました」と話す人もあり、人望の厚さが伺えます。「ベルマークの仕分けは簡単に出来るボランティア。無理のない範囲で広め、参加者を増やしていきたい」と話してくれました。日原さんによると参加者の所属は様々で、「総務以外の部署から来てくれる方は、社会貢献に対して高い意識を持っている」と感じているそうです。

この日の昼休みは計30人近くが作業に参加しました。後日、財団にはきれいに仕分けされた約3万6000点のベルマークが届きました。



1 会議室で黙々と仕分け作業をすすめる社員のみなさん  
2 総務部の日原啓和さん  
3 本社がある多摩東京海上ビルは小田急・京王線の多摩センター駅から徒歩約10分

# 代々受け継ぐシンプルな集計方法

## 神戸市立西須磨小、700万点達成

六甲山系の山々と海に囲まれた風光明媚(めいび)なまち、兵庫県神戸市須磨区にある市立西須磨小学校(西村誠校長、児童924人)の集めたベルマーク点数の累計が、昨年10月に700万点を突破しました。

2月、学校内のクラブハウスでの集計作業取材しました。和気あいあいとした雰囲気の中で、みなさんとても楽しそうに作業していました。子連れの人も多く、小さな子どもたちが室内で自由に遊ぶのを見守りながら、非常に和やかな風景でした。

「毎回の作業はボランティアさんも含め、約20人で2時間程度。集計しきれなかったマークは次回に繰り越し、正午までに終わることを目指しています」とPTA本部役員ベルマーク担当の黒中典子さん。

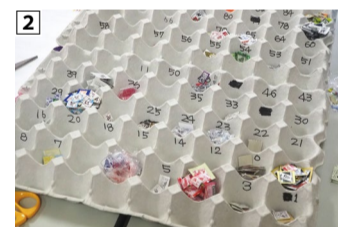
改善を重ねながら代々受け継がれてきた集計方法は、まず卵パックで会社の番号ごとにマークを分け、ある程度たまったら会社ごとの袋へ。そして最後に点数を集計

する、というシンプルなもの。同じ会社のマークは点数を数えやすいよう、キリの良い枚数ごとにゼロハンテープでつなげる工夫もされていました。

PTA役員の任期は1年ですが、しっかり引き継ぎするので、これまで困ったことなどは無かったと言います。700万点超えについては「今年度、私たちが何か特別なことをしたわけではない」と恐縮する黒中さん。「大台達成は、これまでの在校生やPTAの努力のたまもの。これからもずっと積み重ねていけたらいいですね」

この日参加していたクラス委員やボランティアにも話を聞きました。「細かい作業が好きなので楽しい」「1点1円だと思えばやる気が起きる」「幼稚園でもベルマーク収集しているところがあり、小学校に入る前からベルマークを見たら「切らなきや!」と思う癖が」……。

たまったベルマーク預金で、今年度は授業で使えるビデオカメラを買ったそうです。



1 役員とボランティアメンバーら  
2 代々受け継がれてきた卵パックの仕分けグッズ  
3 1872年創立の歴史ある西須磨小学校

# 宮城・気仙沼の2小学校から感謝メッセージ

## バス代&備品代を支援した月立小と中井小

宮城県気仙沼市の2つの小学校から、ベルマーク財団による東日本大震災被災校支援のお礼のメッセージが届きました



た。いずれも支援でバス代と備品代の双方を希望した学校です。

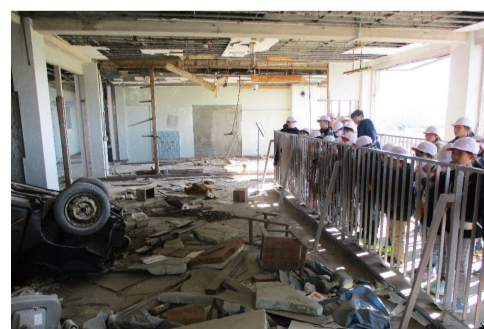
市立月立小学校(村上克弥校長、児童28人)は、5、6年生が取り組んだ体験学習の交通費と、その発表資料を作るiPad購入費に充てました。

山間部に位置する月立小は昨秋、沿岸部の同市唐桑町にある舞根(もうね)森里海研究所を訪問。船でカキ養殖いかだに渡り、海水に含まれるプランクトンを観察しました。山から運ばれてくる養分が、カキのエサとなるプランクトンを育てることを学ぶためです。今年2月には保護者や地域の人たちの前で、子どもたちが、自分たちで作った資料をもとに学習の成果を発表しました。

市中井小学校(山田潔校長、児童60人)は昨年11月、全校児童で気仙沼湾の反対側にある「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」へ見学に行きました。震災後に生まれた子どもたちが増える中、記憶の風化を防ごうとのねらいです。

県立気仙沼向洋高校の旧校舎だった建

物には、4階まで達したという津波の爪痕がくっきり残っていました。3階の教室には流されてきた車があり、校舎の外



にも瓦礫の山が当時のまま保存されています。「震災を知らない1年生にも心に響くことがあったようです」と山田校長。一方、備品としては50インチの液晶テレビを購入し、授業で活用しているそうです。

## ◎宮坂醸造が協賛会社を脱退

協賛会社の宮坂醸造(ベルマーク番号60)が、2020年3月末日でベルマーク運動から脱退しました。同社のベルマークは本年の9月30日ベルマーク財団到着分まで有効です。

同社は長野県諏訪市にあり、江戸時代初期の1662年創業という伝統ある酒蔵です。1972年からベルマーク運動に参加しました。全国的にも有名な「真澄」ブランドの日本酒にベルマークを付け、48年間ベルマーク運動を支えてくれました。

宮坂醸造の脱退で、ベルマークの協賛会社は52社になりました。

